

# 『ICT 利用による教育改善研究発表会論文』の見本

## < 題 目 >

研究発表者名・所属

共同研究者名・所属

連絡先（住所・TEL・E-mail）

### 【概要】

日本語（200～250 字）で記述下さい

キーワード：（5 つ以内）

### 1. 教育改善の目的・目標

問題の所在を具体的に明らかにし、アクティブ・ラーニング等による教育方法の改善、学修成果の測定と可視化など、教育の質的転換に向けた ICT 利用による教育改善の具体的な目的・目標及び解決策を研究する意義を明瞭にして下さい。

（例）問題の所在：基礎学力の低下、自ら学び考える主体性の低下、学修意欲の低下、知識の関連付け・思考力の低下、教室外学修時間の減少、学修者一人ひとりの可能性を伸長する個別最適化への対応、遠隔試験の不正対策など

（例）研究の目的・目標：知識・技能の定着・活用、思考力・判断力・表現力の向上、知識の創造、問題発見・課題設定・解決力の向上、主体性・多様性・協働性の獲得、分野横断対話型授業による価値創造力等の向上、学修過程及び学修成果の可視化による成長支援、質を伴った学修時間の増加、ハイブリッド型授業の工夫・改善、遠隔授業の学修成果の測定評価、生成 AI の授業利用による学修の改善など

### 2. 授業概要と教育改善の内容

教育改善の目的・目標を達成するために、ICT を利用して、どのように改善しようとしたのか、改善の内容及び方法を示して下さい。

#### （1）授業概要

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関係性、学修到達目標、事前・事後の学修時間数、学修成果の評価方法、配当年次、単位数、クラス数、履修者概数など

#### （2）改善内容

改善を始めた時期と期間、改善の授業形態(アクティブ・ラーニング、双方向型授業、反転授業、PBL、TBL、事前・事後学修、協働学修、ハイブリッド型授業など)、改善研究の仕組み(PDCA)や改善で使用するツール、大学組織としての支援の有無など

### 3. 教育実践による教育効果とその分析

学びが向上した等の教育改善の効果を客観的に示すため、以下の複数の観点を参考に組み合わせるなどして客観的に示して下さい。(できるだけ統計的検定結果を含めて下さい。)

※ LMS のデータ、ポートフォリオ等の分析、授業アンケート結果の経年変化とその分析、期末テスト等の経年比較とその分析、ルーブリック評価結果の分析、第三者による外部評価の分析、国家試験等の合格者数の経年比較の分析など。

### 4. 結果の考察

本研究の結果から、ICT の利活用によって教育改善に貢献した要因を考察し、課題や問題点及び今後の発展性、教育の質向上への寄与等について、示して下さい。

### 5. 謝辞(任意)

企業、学生など研究に協力した人への謝辞は、ここに記載して下さい。

## 6. 参考文献および関連 URL

以下のように、表記下さい。

[1]著者：タイトル、論文誌名、巻番号（ゴシック体）、ページ番号、年（西暦）

[2]著者：タイトル、出版社名、年（西暦）

[3]ホームページ名あるいは機関名 URL（〔西暦〕年〇月〇日参照）

- ◎ 『発表会論文』は4ページ厳守です（図表・写真を含む）  
別紙の『発表会論文』のフォーマット記載内容を参照下さい。  
※文字フォント、文字数等を記載しています。
  
- ◎ 発表会論文は、Word ファイルと PDF ファイルの2ファイル共に  
提出してください。